

Oleochemistry Data Book
油脂・脂質・界面活性剤
データブック

日本油化学会
編

丸 善 出 版

序

公益社団法人日本油化学会は2011年に創立60周年を迎えた。本学会ではその記念事業の一貫として、“油脂・脂質・界面活性剤データブック”を発行することになった。これまでに本学会では、2001年に、“第四版 油化学便覧—脂質・界面活性剤—”を出版した後、その姉妹版として2004年に油化学関係用語の解説を中心とした“油化学辞典”を発行し、さらに刊行後まもなく環境関係法令が変更となり用語の解説と一部に齟齬が生じたため、2年後の2006年に“第二版 油化学辞典—脂質・界面活性剤—”を出版してきた。それから数年が経過し、本会会員の方々に希望される専門書のアンケートをとったところ、油化学分野の刷新されたデータを要望するたくさんの声と、環境・安全性に関するデータ、さらに現場で必要とされるデータを求めるご意見を頂いた。そこで編集小委員会では、油化学の全体像を提示することを主な目的としている“便覧”に記述されている基礎的データを生かしながら、現場に役に立つ最新のデータを加味したデータブックをまとめることにした。

油化学が包括する分野は、食品、せっけん、洗剤、化粧品、医薬品、工業用品、さらに最近では代替エネルギーとしてのバイオ燃料や、ものづくりに必要なバイオテクノロジー、ナノテクノロジー、製品製造に不可欠な安全性データ・法規制データ、規格など多岐にわたり、そのデータは最新のものが求められている。その要望を十分に満足させるのがこのデータブックである。

今回のデータブックの大きな特徴は、以下のとおりである。

- 1) 油化学の視点からのオリジナル性をもたせたデータブックとし、できるだけ新しいデータを多方面から収集している。
- 2) データブックであるため、データを中心とし、解説はデータ参照の際の必要最低限にとどめている。そのために、文献を多く紹介している。
- 3) 用語解説、基礎概念の解説などは日本油化学会編の他書やその他の教科書に譲り(“油脂・脂質の基礎”や“界面と界面活性剤”、“基準油脂分析試験法”、“界面活性剤評価・試験法”)、上記の書籍に載っていない解説をデータブックに収載している。
- 4) 試験に関しては、ヒト摂取試験のデータを最優先し、ヒトに関するデータを主に収載している。ヒトに関するデータがない場合に動物実験のデータを収載している。
- 5) 調べたいデータにたどり着きやすい目次立てにし、目次構成はシンプルにしている。
- 6) その分野の初心者～中級者を主な読者対象として念頭に置き、データをまとめている。
- 7) 油化学分野でしか得られない基本データを収録している。

- 8) 現場で役に立つデータを収集している。
- 9) 物性データは単独で載せるだけでなく、他のデータと比較できるように、できるだけ多くのデータを収載している。

編集小委員会および編集委員会の方々には貴重な時間を割いて頂き、本書の編集にご尽力頂いた。執筆は第一線で活躍されている専門家によるものであって、斬新な情報が収録された。脂質関連の生化学の研究者、油脂化学の技術研究者、界面活性剤を研究利用する方々に広く役立つものと信じている。また、本書の出版にあたって、丸善出版株式会社に多大なご協力を頂いた。衷心よりお礼申し上げる次第である。

2012年錦秋

公益社団法人 日本油化学会会長 ならびに
油脂・脂質・界面活性剤データブック編集委員長
阿部正彦